

令和8年1月9日新春記者会見

【市長新年抱負】

令和7年を振り返ると、米中の間で国際情勢が大きく揺れ動き、物価高騰や連日の猛暑など、さまざまできごとがあった。激動の社会情勢の中で、地球の裏側で起ったことが我々の生活に影響を与えるグローバルな世界であることを肌で感じた一年であった。そのような世界全体の動きを感じながらも、平和で明るい年になることを願い新年を迎えたところである。良いことは続け、悪いことは断ち切ってまいりたい。

良い話としては関西万博があった。愛知万博から20周年の年でもあり、未来の社会を展望して、科学技術の進歩や未来が万博で描かれた。持続可能なよりよい未来をつくるため、世界全体で努力していく必要があることを共有し、社会の関心が高まった年だと思っている。

昨年は本市にとって市制施行70周年の年であった。これまでさまざまな先人が将来を夢に描き、さまざまなチャレンジをした中で今日の社会を築いたものであり、その足跡に思いを馳せて敬意を示すとともに、現在の足元の課題を市民の皆さんと共に共有し、未来に向けて夢も共有しながら、次の10年、20年、30年に向けて歩みを進める決意を新たにした一年であった。

市制70周年記念式典には多くの小中学生に参加していただき、内外から高い評価をいただいた。ほかにも将棋の王位戦やおやつコンテスト、こども議会の開催など、市民企画事業を含め多くの記念事業を行った。市制70周年を機として多くの人がつながり、郷土への愛着と誇りを深める良い機会になった。子どもたちが主体的に発言したり、行動したり関わって参加してくれた姿に勇気づけられた。小牧の明るい未来の姿を感じることができた。

政策的には「健康」と「環境」という2つの大きなテーマを掲げ、さまざまな取組を進めてきた。健康の分野では、昨年1月にヘルスラボ・こまきをオープンした。また、AIを活用したフレイル予防事業を新たにスタートしたり健康経営の企業を表彰したりと、市民の皆さんの健康づくりを推進する取組を進めてきたところである。

環境の分野では「地球温暖化」「気候変動」といって久しいが、史上最も暑い夏を数年更新し続けており、温暖化の影響を感じる。学校では体育の授業ができず、体育館にもエアコンの設置が望まれているところである。農水産物の状況や災害の大型化・激甚化も含めて心配される。本市としても取り組んでいかなければということで、市制50周年の折に作成した環境都市宣言に、カーボンニュートラルや気候

変動対策など、この 20 年で変わったことを盛り込んでリニューアルしたところである。ほかにも「燃やすしかないごみ」への名称変更や食品リサイクルの脱炭素化と資源循環連携を始めたり、廃食用油を航空機燃料に資源化するための協定を尾張地域で初めて締結したりした。本市はリサイクル率県下 1 位を継続しているが、廃食用油の収集率も県下 2 番目に多い。多くのご家庭から廃食用油を集めている実績に着目して協定を締結したものである。小牧市だけで取り組んでも限界があるため、それぞれの自治体で取組が広がっていくとよい。短期的には負担になることでも、長期的に利益になることは公共セクターが取り組むべきだと考えている。そういう気持ちを新たに、71 年目のスタートをきってまいりたい。

史跡小牧山については、全国史跡整備市町村協議会大会の総会を愛知県で初めて開催した。第 60 回の記念大会であったが、成功裏に開催することができた。小牧山城の史跡整備 5 か年計画の最後の年度となったが、市制 70 周年を一つの機会と捉え、市民や企業の皆さんから寄附を募った。多くの皆様に賛同いただき、多くの額が集まっているところである。石垣は今回の 5 か年計画で完成するが、今後は大手道の発掘調査を進めながら整備を続けていく。期間も費用もかかるが、史跡の保存・活用に向けてこれを守って未来に伝えてまいりたい。

今年は大河ドラマ「豊臣兄弟！」の放送もあり、小牧山や小牧・長久手の戦いが取り上げられることを期待している。小牧山は徳川側の本陣で、敵対している立場ではあるが、市内でも豊臣側の拠点となった場所もある。機会を捉えて小牧の歴史も PR してまいりたい。

正月早々、アメリカのベネズエラ攻撃も世界を震撼させた。ロシアのウクライナ侵攻も続いており、安全保障環境は非常に関心が高まっている。非常に危うい情勢の中で、民主主義国家と霸権主義国家の争いが激化していると感じる。平和は決して当たり前のものではなく、常日頃からの普段の努力の上に築かれるものだということを痛感する昨今である。日本の平和のためには、日米同盟がしっかりとしながら、日本が「安全を守っていく」という決意のもと、不断の努力を続けていかなければならない。子や孫の世代になっても戦争に巻き込まれることのないよう、平和な一年になることを願っている。

働く世代の人口減少や物価高などさまざまな課題がある中、小牧市の財政も非常に厳しい。昨年は、不交付団体の状況や自治体病院の経営状況などについても、他市町の首長のみなさんと連携して積極的に国に訴えてきた。こうした状況を踏まえながら、小牧の健全経営はもとより、やるべきことをしっかりとやっていく決意を新たにする正月であった。

本市としては、行政改革や DX、質の高い子育て、教育環境の整備、地域コミュニティと連携した防災・減災対策、さらには誰一人取り残さない福祉の充実などに取り組んでまいりたい。将来を見据えた取組を進め、小牧市に住んでよかったですと言つていただけるようなまちづくりに全力を尽くしてまいりたい。

【説明要旨】

■令和 8 年 4 月行政組織改正について

改正方針

- 組織の統合により管理機能と共通事務の集約を図る
- 環境都市宣言の見直しに伴い、環境対策課、ごみ政策課およびゼロカーボンシティ推進室を再編する
- 各市民センターの管理機能を集約するほか、その他の出先機関についても見直しを図る

改正の概要（係の変更は説明を省略）

● 総務部

総務課と契約検査課を統合し、総務課とする。

市民税課と資産税課を統合した課税課を新設する。

● 市民生活部

環境対策課とごみ政策課、ゼロカーボンシティ推進室を再編し、カーボンニュートラル推進課と環境保全課とする。

リサイクルプラザをカーボンニュートラル推進課の下部組織とする。

● 健康生きがい支え合い推進部

市民センター管理課を新設し、各市民センターは市民センター管理課の下部組織とする。

各支所を福祉部市民窓口課の下部組織とする。

● 建設部

道路課と用地課を統合し、道路課とする。

今回の組織改正により、4 課減 15 係減の 14 部 63 課 3 市民センター（支所）138 係となる。

■物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用した支援策について

物価高騰が長期化する中で、市民の皆様の暮らしを守るとともに、地域経済を下支えするため、小牧市は国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用

した支援策を進める。本市の交付限度額は8億5,481万円であり、生活への影響が大きい食料品や生活必需品の負担軽減ができるだけ早く実感できる形で届けることを重視している。

そこで、12月補正で決定した事業として「くらし応援商品券」を発行する。総事業費は6億1,105万円で、交付金の充当予定額は5億7,000万円である。対象は令和8年1月1日時点で小牧市に住民票を有する方で、1人当たり4000円分を配布する。1000円券が4枚で、共通券の「えーなも券」と専門券の「いーなも券」を2枚ずつ配布する。3月上旬から世帯主あてにゆうパックでの発送を開始する予定。

この商品券が利用できる店舗は、12月8日現在574店舗で、食料品取扱店も含め幅広い用途に使っていただくことができる。これまで実施してきた「こまきプレミアム商品券」の枠組みとノウハウを生かすことで、迅速に支援を届けられる点に加え、地域の事業者の皆様にも経済効果が波及すると見込む。

今後決定する事業として、当初予算では中学校第1子の給食費無償化を候補として検討している。給食費が1食当たり380円となる中で、すでに市独自事業で無償化している第2子以降に加え、第1子まで支援を広げ、子育て世帯の負担を直接的に低減する。また「こまきプレミアム商品券」事業も候補としており、12万セットのプレミアム分に交付金を充当することで、家計支援と市内消費の後押しを図る。さらに3月補正では、私立保育園等の給食費補助について、県制度に基づく市負担分に交付金を充てる予定。

本市としては、生活に直結する負担軽減と地域経済の循環の両立を図りながら、必要な支援をわかりやすく、適切な時期に届けられるよう取り組んでまいりたい。

■ 「こまき都市ブランドロゴマークポロシャツ」の販売について

こまき都市ブランドロゴマークを広く周知し、小牧市をPRするため、こまき都市ブランドロゴマークポロシャツを販売する。右胸にロゴマーク、背中にロゴマークのアイコンをプリントしたデザインで、全11色展開である。

このポロシャツは、市職員が購入して勤務中に着用するだけでなく、市民の皆様にも着用いただけるよう、先行販売で1月30日(金)まで全11色の購入予約を受け付ける。

その後は通常販売として、4月から小牧駅前観光案内所で白、ネイビー、カーキ、ピンク4色を販売する。販売価格は1着税込み2,700円である。

ブランドロゴマークは、小牧市の魅力に囲まれてこどもが夢を描き、その夢を市民の皆様と応援していくことすべての世代がつながっていく、そんなあなた

かいつながりのある小牧市を表している。市民の皆様にもぜひ購入いただき、職員と一緒に小牧市をPRしていただきたい。

■ヘルスラボ・こまき1周年記念イベント～one☆ラボ 健康フェスタ2026～について

ラピオ5階にあるヘルスラボ・こまきがオープンから1年を経過することを記念し、親子からシニアまで楽しめる健康イベントを開催する。日時は2月11日(水、建国記念の日)10時30分から、ヘルスラボ及びアリーナで行う。

豪華講師陣による体力アップ講座やひざのセルフケア講座、筋力・骨密度・フレイルチェックなど、多彩な内容で健康づくりを体験できる。協力企業のブースでは、eスポーツ体験や様々な健康測定などを体験していただける。市制70周年では、ヘルスラボ・こまきのオープンを皮切りに、市民の健康づくりに向けて新たなスタートを切ったところである。ぜひ多くの市民の方にイベントに参加いただき、健康づくりのきっかけづくりと継続的な利用につなげていきたい。

■健康づくり推進事業所表彰式＆交流会について

本市では、全国健康保険協会と連携して企業の健康経営を支援している。市内の事業所が従業員とその家族の健康づくりを経営的視点でとらえ、事業所みずからが健康づくりを推進することで、働き世代の健康づくりを目指すとともに、事業所が健康経営に取り組みやすい環境を整備し、自主的な健康経営の推進を目指すことを目的に、昨年度より健康経営優良事業所顕彰制度を創設している。

2月6日(金)午後1時30分から、今年度健康経営優良事業所に選定された5社を表彰する。対象はアイプランテ株式会社、CKD株式会社、株式会社大京化学、日本クロージャー株式会社小牧工場、株式会社メイコンの5事業所である。

表彰式終了後には交流会を開催し、表彰された企業の取組事例の紹介や、健康経営に取り組む事業所同士の意見交換などを行う予定である。

なお、今年度の交流会は「市長と語るタウンミーティング」とし、山下市長も参加して事業所の皆様と意見交換する機会とする。1月16日を期限として、交流会に参加いただく事業者の申込みを受け付けている。ぜひ多くの事業所の皆様にご参加いただきたい。

■「史跡小牧山 夢・チャレンジ寄附金」の募集期間の延長について

昨年、市制70周年記念事業として、史跡小牧山の整備事業を応援していただけ

る皆様からの寄附を募集し、その特典として、寄附者名を掲載した銘板を小牧山歴史館内に設置する「史跡小牧山 夢・チャレンジ寄附金」を行った。令和7年12月末を受付期限としていたが、さらなる寄附金の拡大を図るため、募集期間を令和8年3月13日まで延長することとした。

改めて寄附金制度の内容をご説明させていただく。

対象となる寄附金額は、個人は3万円以上、市内本社企業は10万円以上、市外本社企業は100万以上である。寄附金額に応じて、銘板の大きさが2センチ×8センチと4センチ×16センチの2種類ある。

募集期間の延長にあたり、法人の寄附に関し、寄附者本人の氏名に代えてご家族の氏名を銘板に掲載できるようにした。

税制上の優遇については、市内本社企業の場合、寄附金額を法人税の規定により損金算入することができます。市外本社企業の場合は、企業版ふるさと納税制度を利用することで、実質1割負担で寄附が可能となる。個人の場合は、ふるさと納税制度を利用でき、実質負担2000円で寄附できる。

なお、銘板への掲載はふるさと納税制度の返礼品ではなく、あくまでも寄附の特典であるため、市内在住の方でも特典の対象となる。

寄附の申込みは、引き続き小牧山課の窓口で受け付けるほか、インターネットのふるさと納税サイトからも可能である。市内外を問わず、多くの個人・企業の皆様からの応援をお願いしたい。

なお、令和6年度分も含めた令和7年12月末時点の寄附実績は、個人・企業を合わせて202件、3,745万8,000円である。